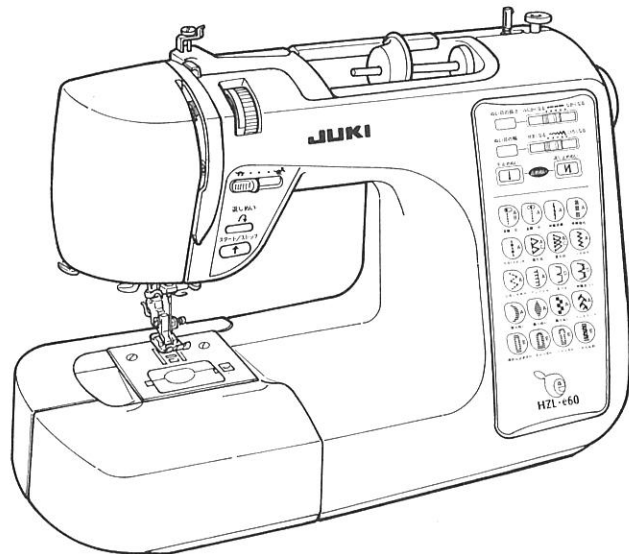


JUKI

COMPUTER SEWING MACHINE

HZL-E60

取扱説明書



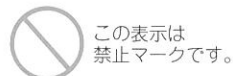
安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このコンピューターミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。なお、このミシンは選びぬかれた純正部品を使い、十分に品質管理された製品ですので多彩なソーイングをお楽しみください。

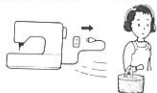
安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。
このミシンは日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



警告 このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - ミシンのそばを離れるとき。
 - ミシンをご使用になったあと。
 - ミシンのご使用中に停電したとき。



注意 このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。
- (コントローラーは別売品です)



2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。



3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。



4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。



5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。



6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。

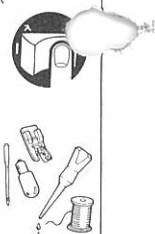


7. お子様ご自身がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。



8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。

- 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
- 下糸、上糸をセットするとき。
- ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください）
- 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。



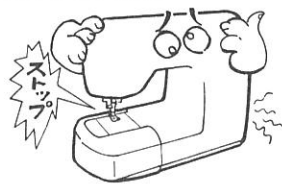
9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。

10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。

- 正常に作動しないとき。
- 落下などにより破損したとき。
- 水に濡れたとき。
- 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- 異常な臭い、音がするとき。

その他のご注意

長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止まるようになっていきます。



約20分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤でふかないでください。



柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

もくじ

安全にご使用していただくために	1	裁ち目かがり	14
付属品	2	直線強化ぬい (ストレッチステッチ)	14
各部のなまえ	3	キルトステッチ	14
主なはたらき	4	自動ボタン穴かがり	15
模様の種類と操作・表示パネル	5	かん止め	16
下糸を巻くには	6	ファスナーつけ	17
ポビンのセット		脇あきファスナーつけ	
上糸のかけ方	7	つき合わせファスナーつけ	
針自動糸通し		まつりぬい (ブラインドステッチ)	18
下糸の引きあげ方		パッチワーク	18
押えのとりかえ方	8	別売品のご紹介	19-21
押えと各模様の関係	8	コンシール押え、三ツ巻き押え、手動BH押え、	
ぬい目の長さを変えるには (手動)	9	上送りアタッチメント、キルトアタッチメント、	
布地・糸・針の関係	10	テフロン押え、樺定規、コントローラー	
糸調子を変えるには (手動)	10	仕様表	21
直線ぬい	11	針の交換	22
かん止めぬい	12	ランプの交換	22
手動止めぬい、厚地のぬい始め		お手入れ (掃除)	22
ジグザグぬい	13	故障かな…というときは	裏表紙
ぬい目の幅を変えるには	13	アフターサービスと保証	裏表紙

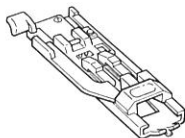


ミシンのケースに取扱説明書を入れることができます。

■付属品



基本押え (A)



ボタン穴かがり押え (E)



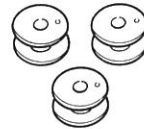
裁ち目かがり押え (C)



ブラインドステッチ押え (D)



ファスナー押え (B)



ポビン (3ヶ)



専用ドライバー



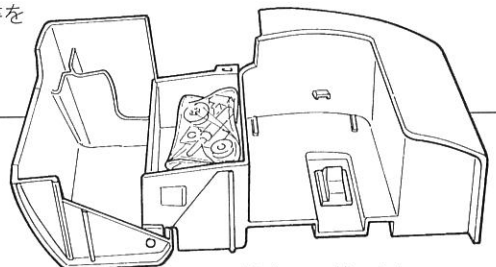
リッパー (糸ほどき)



糸ゴマキャップ (小)



針HAx1
11番 2本
14番 1本



補助ベッドの中に付属品が入っています。

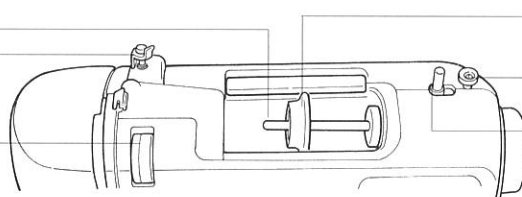
※基本押え (A) は最初ミシン本体にとりつけられています。

■各部のなまえ

糸立棒
下糸巻案内

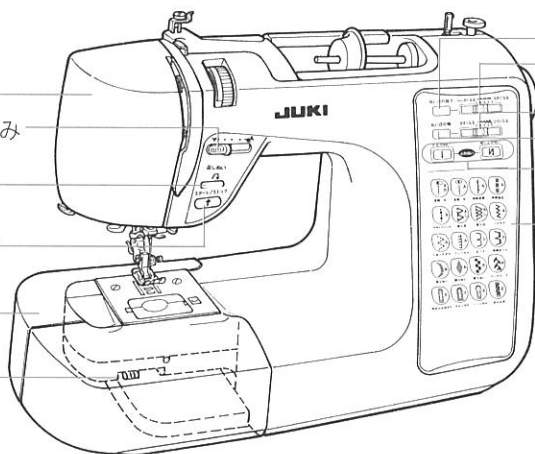
糸調子ダイヤル

面部カバー
スピードコントロールつまみ
返しぬいボタン
スタート・ストップボタン
補助ベッド
ドロップフィードつまみ



糸ゴマキャップ
糸巻調節
糸巻軸

ぬい目の長さ手動ボタン
ぬい目の長さ調節つまみ
ぬい目の幅調節つまみ
ぬい目の幅手動ボタン
自動止めぬいボタン
操作パネル

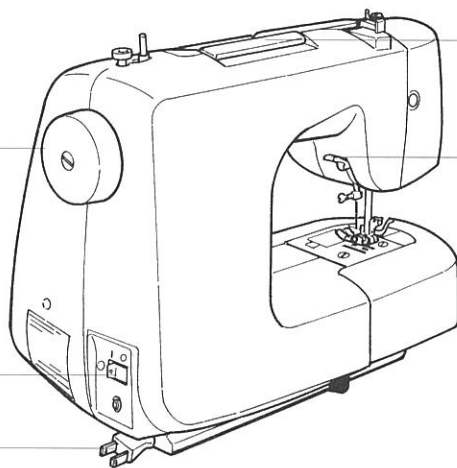


はずみ車 (プーリー)

電源ランプスイッチ

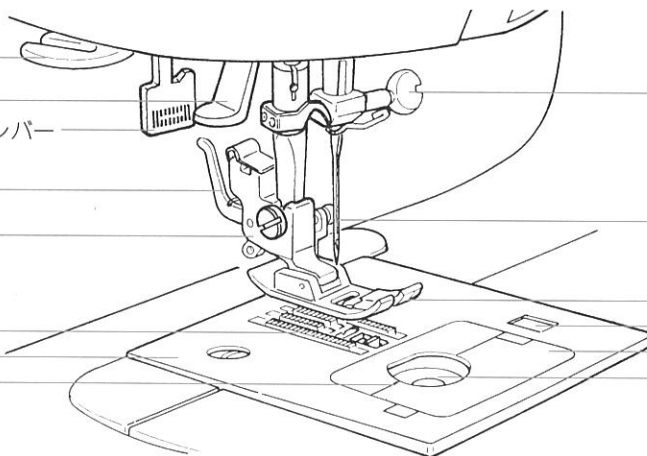
電源プラグ (コードリール)

取手
押え上げレバー



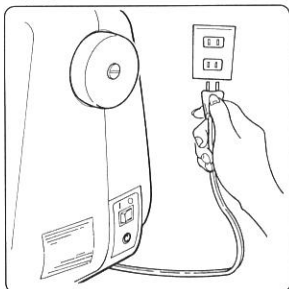
糸切り刃
糸通しレバー
ボタン穴かがりレバー
押えかえレバー
押えホルダー
送り歯
針板
内かま

針止めネジ
針
押え
かまカバー開閉ボタン
かまカバー
ボビン



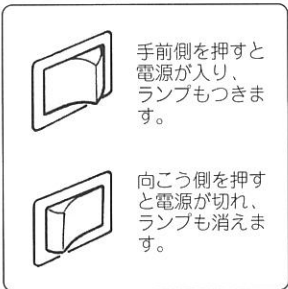
■主なはたらき

電源・コードリール



コードを引き出します。
コードを少し引いてゆるめま
すと巻きこみます。

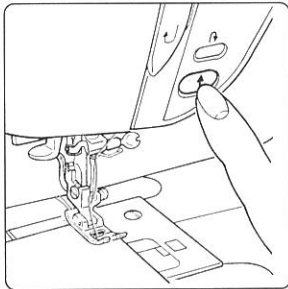
電源ランプスイッチ



手前側を押すと
電源が入り、
ランプもつきま
す。

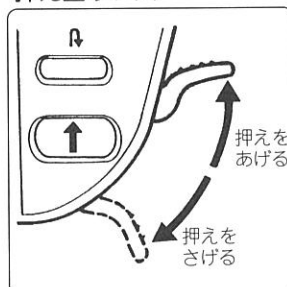
向こう側を押す
と電源が切れ、
ランプも消えま
す。

スタート・ストップボタン



ミシンをスタートさせます。
再度押すと針が下位置でストップします。
スイッチの色がミシンの準備の状態が変わります。
緑色：スタート可能とぬい中のとき
赤色：スタート不可能なとき
橙色：下糸巻き（糸巻軸が右側にある）のとき

押え上げレバー



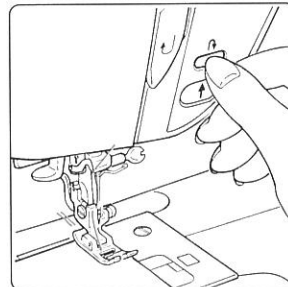
上にあげると押えがあがりま
す。下へさげると押えはさが
ります。

ぬい速度調節つまみ



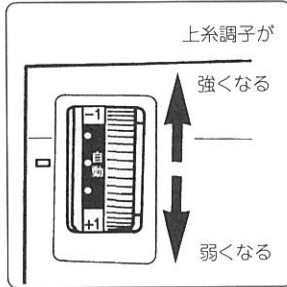
ぬい速度を調節します。

返しぬいボタン



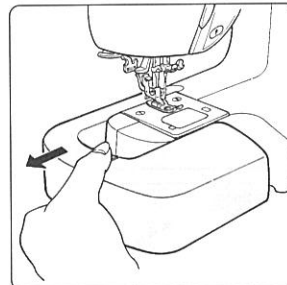
ぬい始め、ぬい終りに返しぬ
いをするとぬい目がほつれま
せん。ぬい終りに押すと、針
は上の位置で止まります。

糸調子ダイヤル



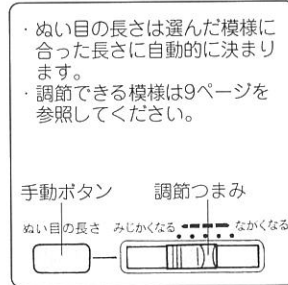
上糸調子を調整します。

フリーアーム



補助ベッドを左へ引きますと
フリーアームになります。

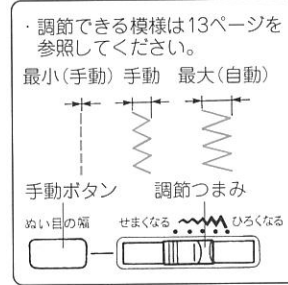
ぬい目の長さの調節



・ぬい目の長さは選んだ模様
に合った長さに自動的に決ま
ります。
・調節できる模様は9ページを
参照してください。

手動ボタン 調節つまみ
ぬい目の長さ みじかくなる ながくなる

ぬい目の幅の調節



・調節できる模様は13ページを
参照してください。

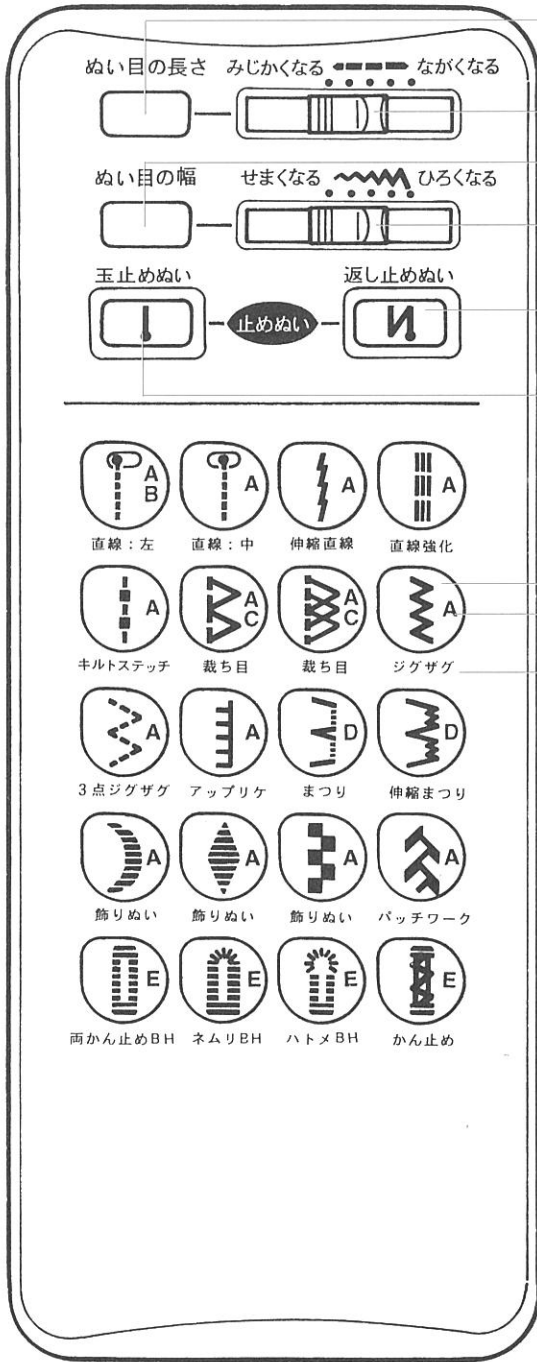
最小(手動) 手動 最大(自動)

手動ボタン 調節つまみ
ぬい目の幅 せまくなる ひろくなる

各模様のぬい目の長さ、ぬい目の幅を変えるには：
手動ボタンを押して（ボタンが光ります）から、お好みの位置に合わせます。
※ボタンが点滅しているときは、ぬい目の幅、ぬい目の長さが
自動のときと同じになります。

模様の種類と操作・表示パネル

模様の種類と操作・表示パネル



ぬい目の長さ手動ボタン

ぬい目の長さ調節つまみ

ぬい目の幅手動ボタン

ぬい目の幅調節つまみ

自動返し止めぬいボタン

全ての模様のぬい始め、ぬい終わりに3針の止めぬいができます。

自動玉止めぬいボタン

全ての模様のぬい始め、ぬい終わりに5針の玉止めができます。

模様ボタン

押え記号

模様の名前

*電源を入れると、自動的に直線（左基線）が選ばれます。

*模様を選択すると、ボタンが光ります。

- 直線：左 (A, B)
- 直線：中 (A)
- 伸縮直線 (A)
- 直線強化 (A)
- キルトステッチ (A)
- 裁ち目 (A, C)
- 裁ち目 (A, C)
- ジグザグ (A)
- 3点ジグザグ (A)
- アップリケ (A)
- まつり (D)
- 伸縮まつり (D)
- 飾りぬい (A)
- 飾りぬい (A)
- 飾りぬい (A)
- パッチワーク (A)
- 両かん止めBH (E)
- ネムリBH (E)
- ハトメBH (E)
- かん止め (E)

このミシンは伸縮素材（ニット、ジャージー地など）に適したぬい目（模様）を備えています。

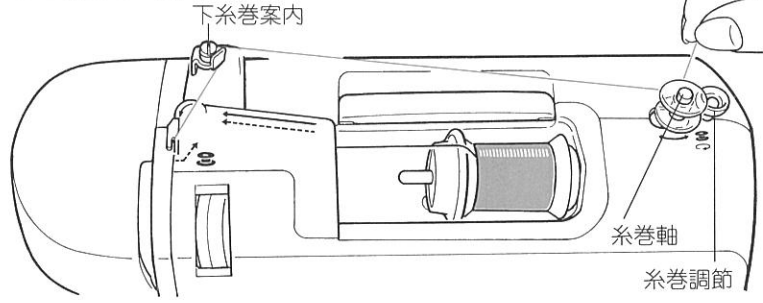
伸縮地用模様

- 伸縮直線ぬい
- 直線強化ぬい
- 三点ジグザグ
- 伸縮まつりぬい

■下糸を巻くには

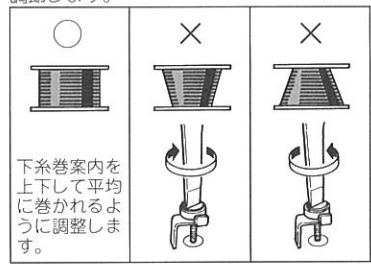
※下糸巻状態で電源を入れると、ピピッと音が鳴ります。

●下糸巻きの糸のかけかた

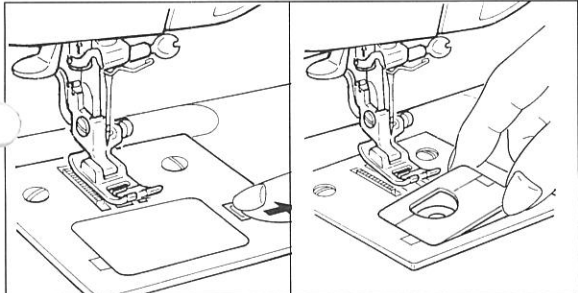


●下糸巻きの調節

糸によって、下糸が片寄って巻ける場合に調節します。

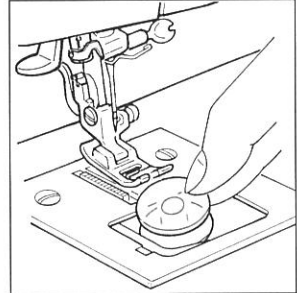


1 かまカバーを開けます。

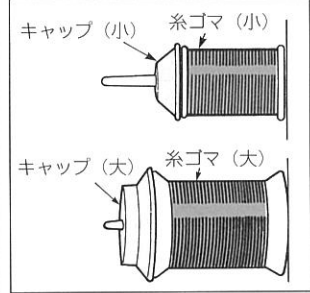


注意 かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

2 ボビンをとり出します。

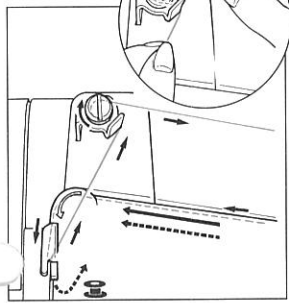


3 糸ゴマをセットします。



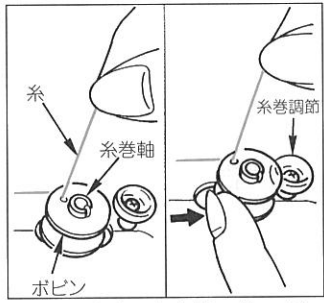
糸ゴマの外周に応じてキャップをかえてとりつけます。

4 下糸巻案内に入れ ます。



糸は右回りに、両手で下糸巻案内にかけます。

5 ボビンを糸巻軸に セットします。



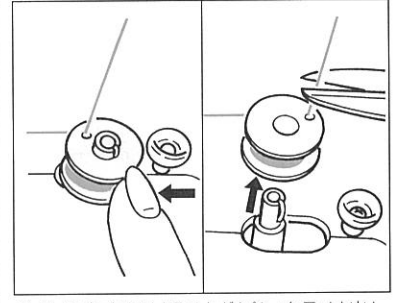
ボビンを糸巻調節へ押しつけます。(スタートストップボタンが橙色に点灯します)

6 スタート させます。



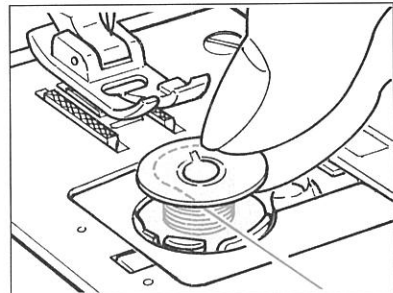
巻き終わったら再度スタート・ストップボタンを押します。

7 ボビンを左側に 戻します。



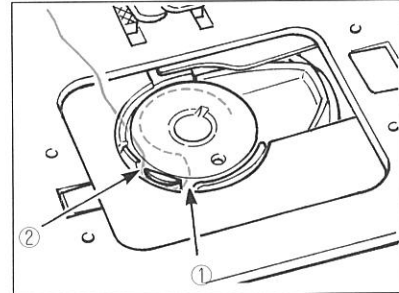
余分な糸を切り取りボビンを取り出します。

8 内かまに入れます。



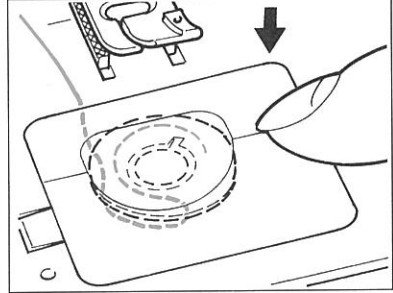
ボビンの糸巻き方向を左巻きに！

9 内かまに糸をかけます。



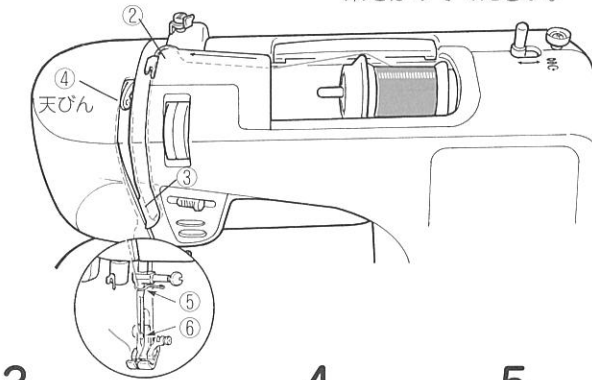
①に糸をかけ②のミソの上ののせ後ろへもって行きます。

10 かまカバーを 閉じます。

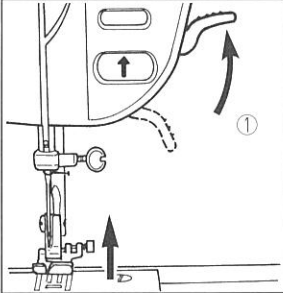


■上糸のかけ方

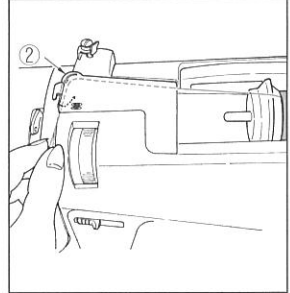
※必ず押えを上げてから糸をかけてください。



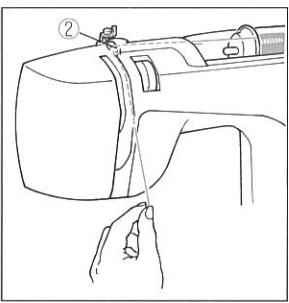
1 最初に押え上げレバーをあげます。



2 糸案内にかけます。

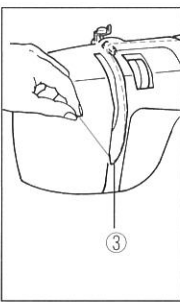


3



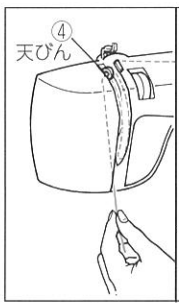
ミソに入れて下にもって行きます。

4

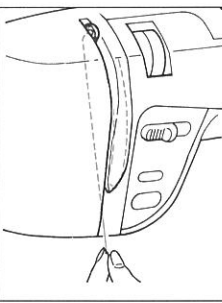


③から上にもって行きます。

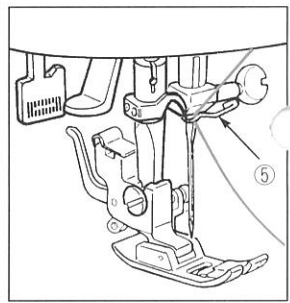
5



④の天びんに糸をかけて下にもって行きます。



6

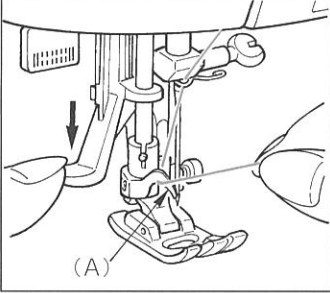


⑤は右側からかけます。

針自動糸通し

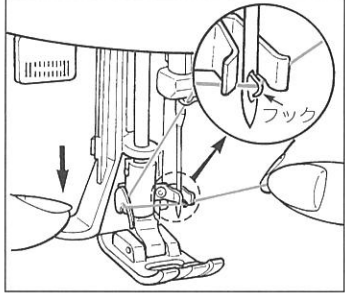
※針が最上点あることを確認してください。

1 押えをさげ糸通しレバーをさげます。



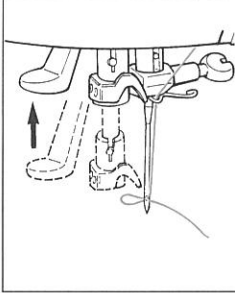
針を上であげてから糸通しレバーを途中(重くなる直前)までさげて(A)に糸をかけます。

2 フックにかけます。



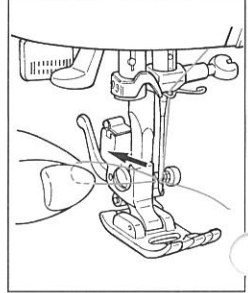
さらに糸通しレバーをさげてフックに糸をかけます。

3 糸通しレバーをあげます。



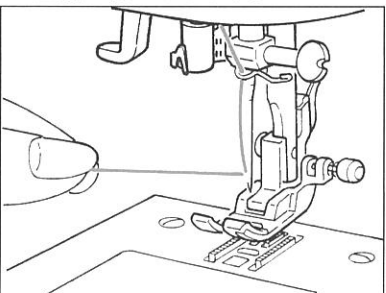
指をはなすとフックに糸通した糸を針穴から10センチくらい引き出します。

4 糸を引き出します。

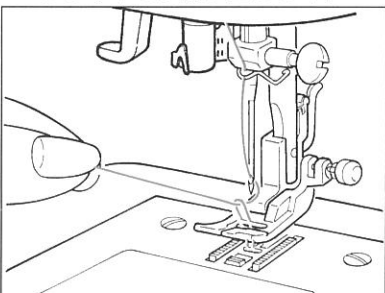


下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます。

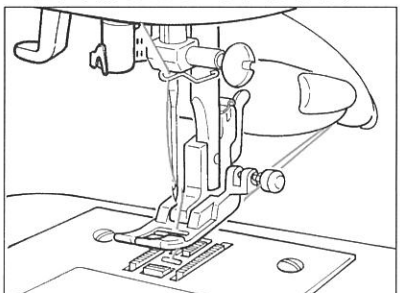


2 はずみ車を手前に回します。



針が上下して下糸を引き出します。

3 上・下糸を10センチ出します。

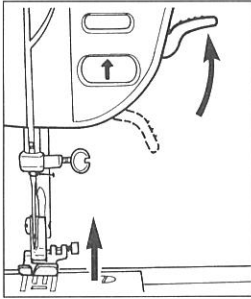


上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

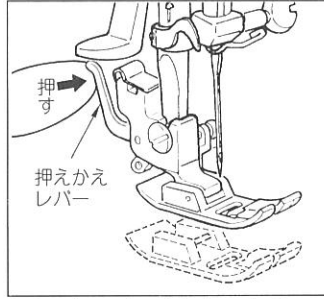
■押えのとりかえ方

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをあげます。

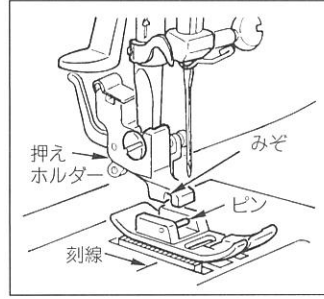


2 押えをはずします。

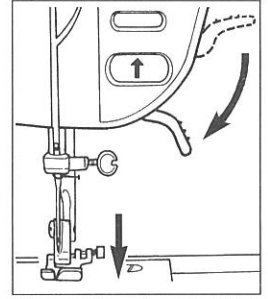


押えかえレバーを矢印の方向に押します。

3 押えのピンと刻線を合わせます。



4 押えをさげます。



押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

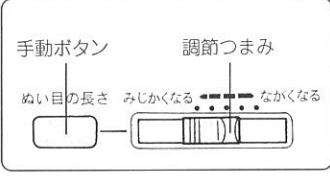
■押えと各模様の関係

注意 押えをまちがえますと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

押えと記号	基本押え										ファスナー押え	
	押え記号A										記号B	
模様												左基線使用
主な用途	左基線	中基線	伸縮直線ぬい	直線強化ぬい	キルトステッチ	シグザグぬい	裁ち目かがり	三点シグザグ	アップリケ	模様ぬい	パッチワーク	ファスナーつけ

押えと記号	裁ち目かがり押え	ブラインドステッチ押え	ボタン穴かがり押え			
	記号C	記号D	記号E			
模様						
主な用途	裁ち目かがり (オーバーロック)	まつりぬい 伸縮地用 まつりぬい	両かん止め	ねむり	ハト目	かん止め
			ボタン穴かがり			

ぬい目の長さを調えるには・・・



- 電源を入れなおしたり、模様を選びなおすと、自動的に適正なぬい目の長さがセットされます。
- お好みのぬい目の長さにしたときは手動ボタンを押して（ボタンが光ります）調節します。（手動の解除は模様を選びなおすか、再度、手動ボタンを押します。）
- ボタンが光っていないときは、つまみを動かしても、ぬい目の長さは変わりません。

模様										
ぬい目の長さ	自動	2.4	3.0	2.6		2.4	1.4	2.0	1.2	2.6
	手動の範囲	0.0~4.0	1.8~4.0	固定	1.2~2.6	0.6~2.2	0.0~4.0	1.2~2.6		

模様										
ぬい目の長さ	自動	2.0	1.8	0.5		2.6	0.4	0.5	0.6	0.7
	手動の範囲	0.4~4.0		0.0~1.0		固定	0.2~1.0			

直線ぬいの自動、手動のぬい目の長さの例

自動

ぬい目の長さ みじかくなる なくなる

自動の場合:
調節つまみの位置に関係なく適正なぬい目の長さが設定されます。

手動のとき




ぬい目の長さ みじかくなる なくなる

点滅位置より右にボタンを押して調節つまみを動かしたとき

点滅位置より左に動かしたとき

- 調節つまみを動かすとピッと鳴りますので、お好みの位置に合わせます。
- 手動のときでも自動の位置になりますと手動ボタンが点滅します。

■布地・糸・針の関係

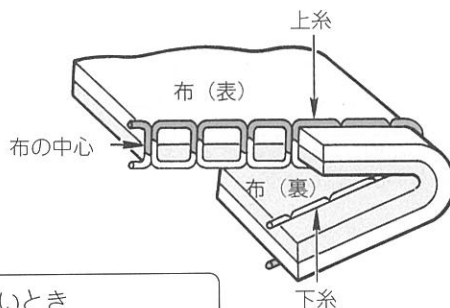
	布地	ミシン糸	針
薄地ぬい 	ローン	絹ミシン糸 80~100番	(9番)
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番
普通地ぬい 	普通木綿・化繊布	綿糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊服地		11~14番
厚地ぬい 	デニム	綿糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番

※ニット針 (HA×1sp) は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

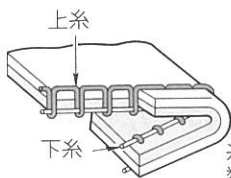
■糸調子を変えるには・・・

- 自動の位置に合わせるとほとんどの布地に適応できます。
- 特殊な素材など糸調子が変わったときは下表のように調整します。

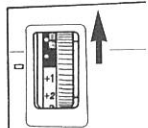
通常の糸調子は上糸と下糸のからんでいるところが布の中心です。



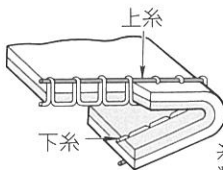
× 上糸の調子が弱いとき



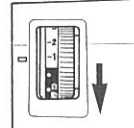
糸調子ダイヤル目盛の数字を大きくします。



× 上糸の調子が強いとき



糸調子ダイヤル目盛の数字を小さくします。




■直線ぬい

▲注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

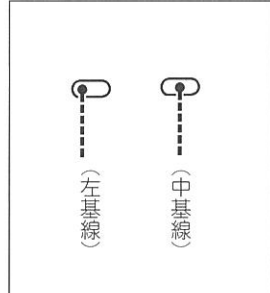
直線ぬいは、ぬいの基本です。
布地に適した針と糸を選びましょう。

1 押えを確かめます。



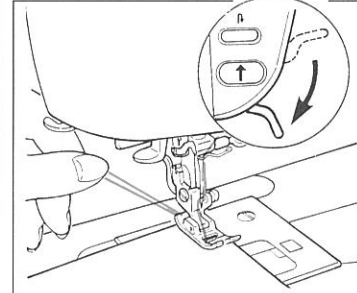
基本押え (A)

2 直線もようを選びます。

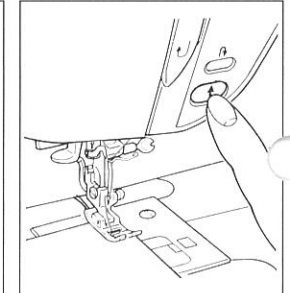


(左基線) (中基線)

3 布地を入れ、押えをさげます。



4 スタートさせます。

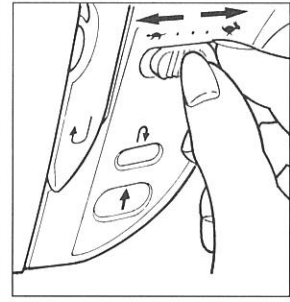


布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

5 布地に軽く手をそえます。



6 ぬい速度を調節します。



7 ストップさせます。



8 押えをあげて布地を取り出します。



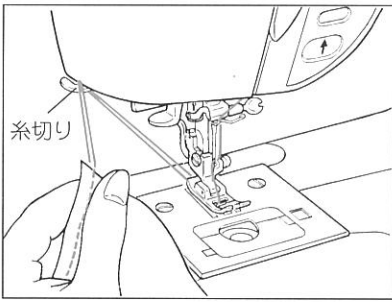
ぬっている間は布地をムリに引っぱらないようにします。

右にするとはやくなります。左にするとおそくなります。

スタート・ストップボタンを押します。針は下で止まります。返しぬいボタンを押すと針が上がります。

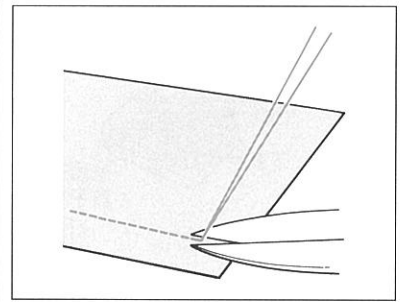
針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

9 糸を切ります。



糸切り

10 布地の裏で糸を結びます。



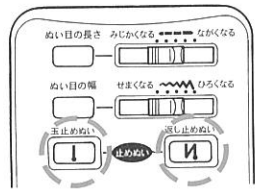
上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し、面部カバーについている「糸切り」で糸を切ります。

布地の裏に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

伸縮地の直線ぬいには！

ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

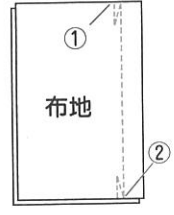
●自動止めぬい



ぬい目が
ほつれないように...

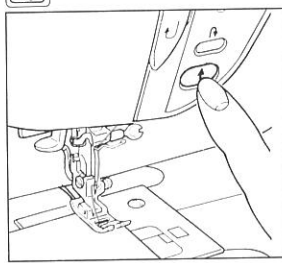
自動返し止めぬい

例：直線ぬい



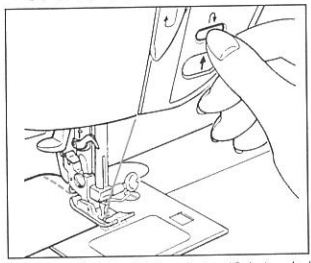
① ボタンを押すとボタンが点灯して、模様
のぬい始めとぬい終りに
返し止めぬいができる
ように設定されてい
ます。

① 模様を選んだあと
ボタンを押します。



返し止めぬいをしてスタート
位置から自動的にぬい始め
ます。

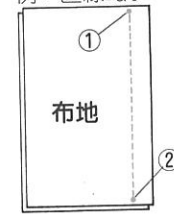
② 返しぬいボタンを
押します。



所定の位置で返しぬいボタンを押
すと、返し止めぬいをして所定の位
置で止まります。(針は上で止まります)
*ストップボタンを押してから返しぬい
ボタンを押しても返し止めぬいをし
ます。

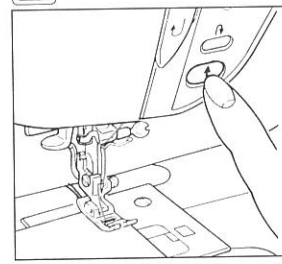
自動玉止めぬい

例：直線ぬい



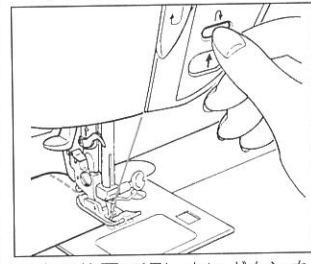
① ボタンを押すとボタンが点灯して、模様
のぬい始めとぬい終りに
5針の玉止めぬいが
できるように設定され
ています。

① 模様を選んだあと
ボタンを押します。



玉止めぬいをしてスタート位
置から自動的にぬい始め
ます。

② 返しぬいボタンを
押します。



所定の位置で返しぬいボタンを押
すと、5針の玉止めぬいをして所定の
位置で止まります。(針は上で止ま
ります)
*ストップボタンを押してから返しぬい
ボタンを押しても5針の玉止めぬいを
します。

*自動止めぬいを解除する
には3通りの方法があり
ます。

(1) もう一度



キー

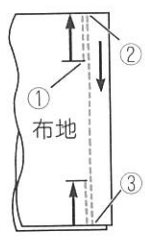
を押します。

(2) 他の模様を選びます。
(3) 電源を入れ直します。

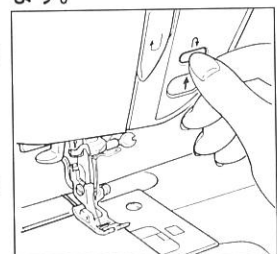
●止めぬい (返しぬい)

多めの返しぬいを
したい場合お使い
ください。
自動止めぬいは
解除してください

*返しぬいボタンは
押している間だけ
返しぬいができ
ます。
*返しぬいはゆっく
りな速度になっ
ています。

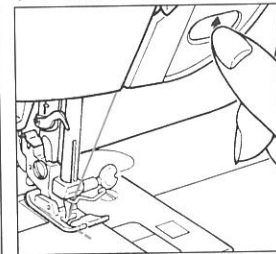


① 返しぬいボタンを押
します。

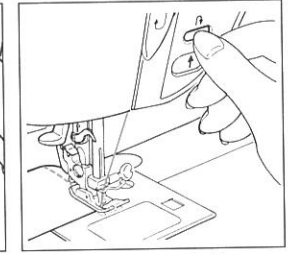


押している間だけ返しぬい
をします。

② スタート・ストップボ
タンを押します。

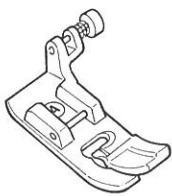


③ 返しぬいボタンを押
します。



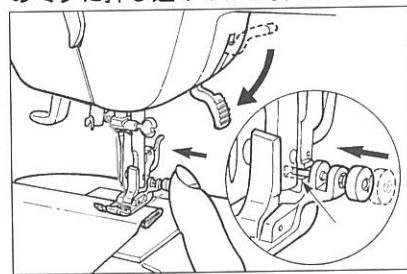
(針は上で止まります)

●厚地のぬい始め



ぬいしろが重なった布端よりぬう場合は、押えに
ついてのボタンを使うと、押えが布地と平行に
なり、スムーズにぬうことができます。

押えについているボタン (パネ) を押えホルダー
のミゾに押し込みながら押えをさげます。



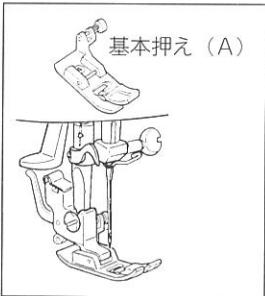
ジグザグぬい



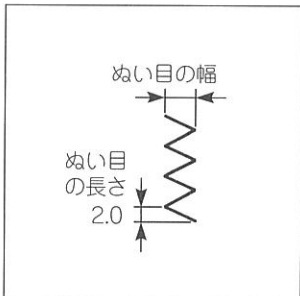
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを確かめます。



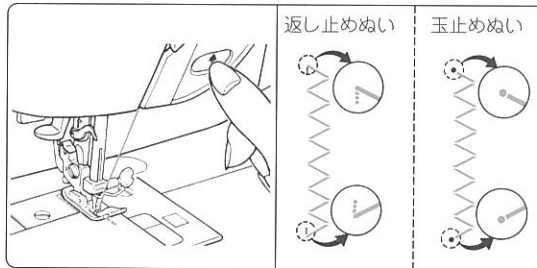
2 ジグザグ模様を選びます。



自動設定の:
ぬい目の幅...5.5 mm
ぬい目の長さ...2.0 mm

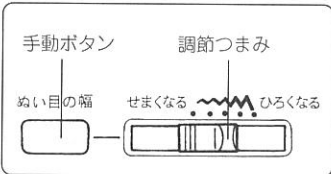
自動止めぬい

ぬい模様を選んでから **返し止めぬい** キーまたは **玉止めぬい** キーを押します。
布地をぬい始める位置に入れ、スタートさせます。



止めぬいをしてからぬい進みます。
所定の位置で返しぬいスイッチを押します。
止めぬいをして、所定の位置で自動的に止まります。

ジグザグのぬい目の幅を変えるには



- ぬい目の幅の手動ボタンを押して（ランプがつきます）から、調節つまみをお好みの振り幅に合わせます。
- 手動設定を自動に戻すには模様を選びなおすか、もう一度手動ボタンを押します。

ジグザグのぬい目の幅を手動にした場合とぬい目の長さの自動・手動の例

ジグザグの振り幅	ぬい目の幅			
	ぬい目の幅	せまくなる	ぬい目の幅	ひろくなる
自動				
ぬい目の長さ	2.0	2.0	2.0	2.0
手動の範囲	最小	最大	最小	最大
	最小	最大	最小	最大

ぬい目の幅を変えられる模様

模様												
自動	6.3	5.5	7.0	3.5	3.0	4.0	7.0	5.0	7.0			
手動	3.3~6.3	0.0~5.5	2.5~7.0	2.5~4.5	3.5~5.5	2.5~7.0	3.0~5.0	5.0~7.0				

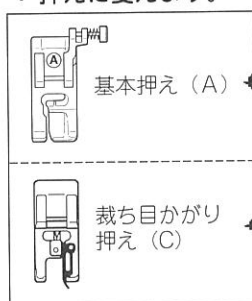
■裁ち目かがり

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

▲ 注意

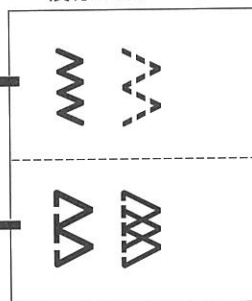
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様にあった押えに変えます。



〰️、〰️の模様は必ず基本押え (A) をお使いください。

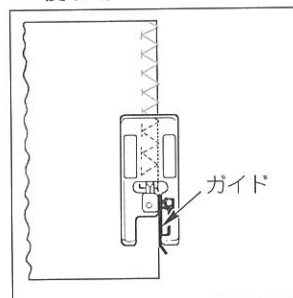
2 模様を選びます。



4種類のうちお好みの模様を選びます。裁ち目かがり押え (C) を

使うときは、必ず〰️、〰️を選択してください。

3 裁ち目かがり押えを使う場合



布端をガイドにあててぬいめます。

■直線強化ぬい

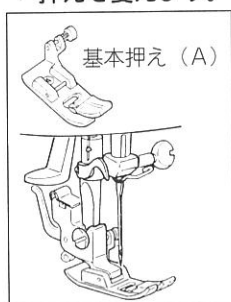
(ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

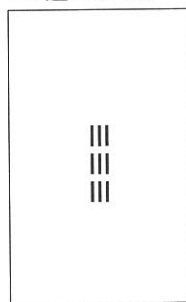
▲ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを変えます。

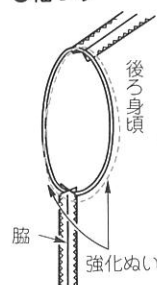


2 模様を選びます。

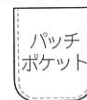


■使用例

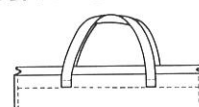
●袖つけ



●よく使用するポケットつけ



●袋ものにとってつけ



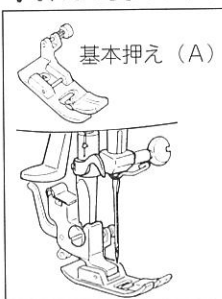
■キルトステッチ

目立たない下糸を使うことによって、キルトやパッチワークの作品を手ぬい風に仕上げます。

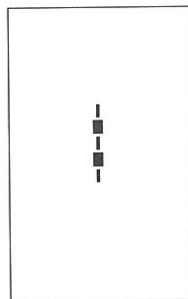
▲ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

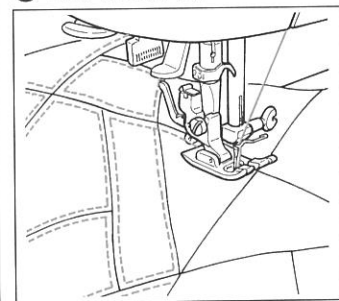
1 押えを変えます。



2 模様を選びます。



3 押え上げレバーをさげてぬい始めます。



自動ボタン穴かがり

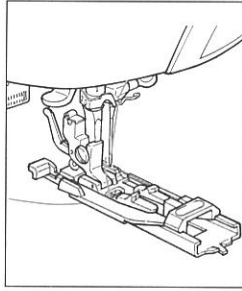
■自動ボタン穴かがり

ぬう布地やボタンの大きさに合わせて模様を選びます。

ボタン穴かがりは、自動返し止めぬい・玉止めぬいのどちらを選んでも、ぬい始めとぬい終りの針落ちは同じです。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押え (E) をセットします。

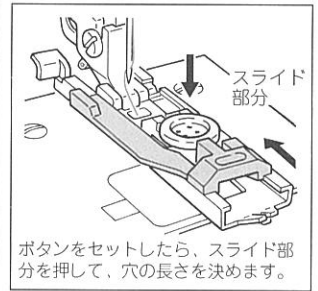


上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

2 目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

模様	主な用途
	薄い布地 (シャツ、ブラウスなど) の小さいボタンに使用します
	薄い布地 (シャツ、ブラウスなど) の大きいボタンに使用します
	厚い布地 (スーツ、オーバーなど) の大きいボタンに使用します

3 一度押えをさげて、ボタンをセットします。

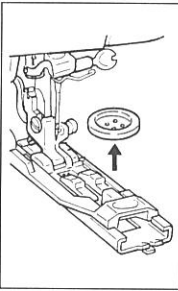


ボタンをセットしたら、スライド部分を押し、穴の長さを決めます。

かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。

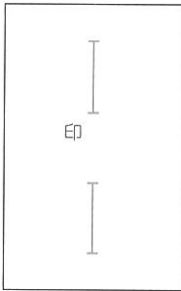
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みがかがり穴の長さです。)

4 ボタンをはずします。



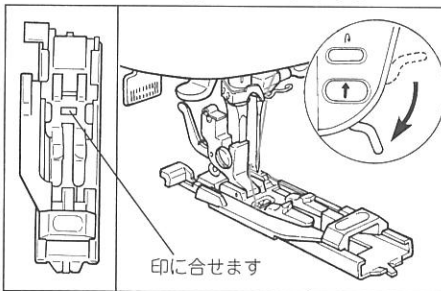
長さが決まりましたらボタンをはずします。

5 布地に印をつけます。



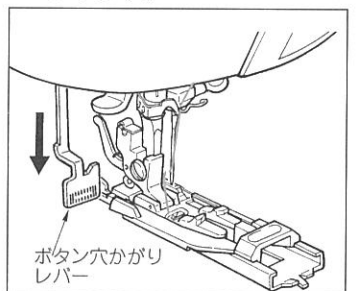
ボタン穴の位置にチャコで印をつけます。

6 印に合わせて押えをさげます。



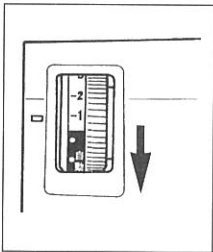
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

7 ボタン穴かがりレバーをさげます。



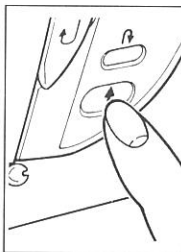
レバーを止まるまでさげます。※レバーをさげないでスタートさせると、ピピピという音が鳴ります。

8 糸調子を調整します。



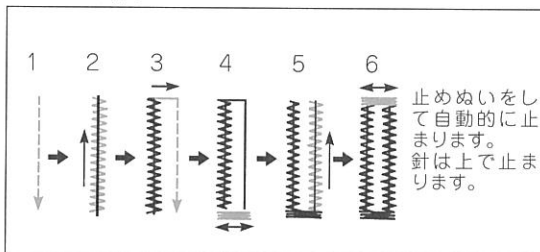
*布や糸にもよりますがボタン穴かがりは多少上糸が強めになりますので、上糸の調子を弱くすると、よりきれいなぬい目になります。

9 スタートさせます。



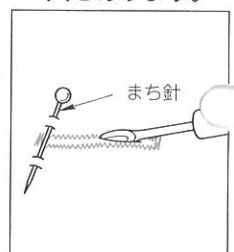
スタート・ストップボタンを押します。

ぬわれる順序



ぬい終わったら糸を切ります。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて、押えをさげてぬうことができます。

9 リッパーで穴をあけます。

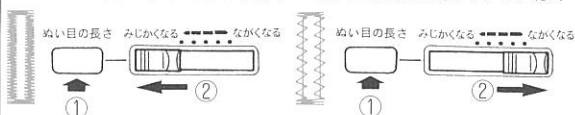


切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。

●ぬい目の長さの調整方法

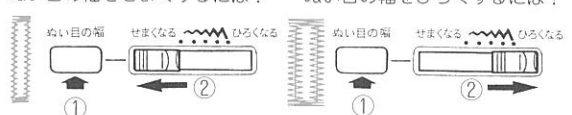
*デニムなどの厚地や太糸を使用してボタン穴かがりをぬうときは、ぬい目の長さを自動位置より粗めにします。

ぬい目の長さを細かくするには！ ぬい目の長さを粗くするには！



●ぬい目の幅の調整方法

ぬい目の幅をせまくするには！ ぬい目の幅をひろくするには！



■かん止め

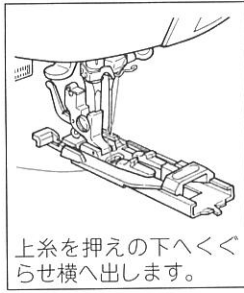
力がかかって、ほつれやすい部分に使うと、ぬい目がしっかりします。

▲ 注意

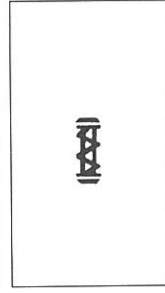
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

*かん止めの長さは返しぬいボタンで決まります。
*段部などで押えが水平にならない時はあて布や厚紙をご使用ください。

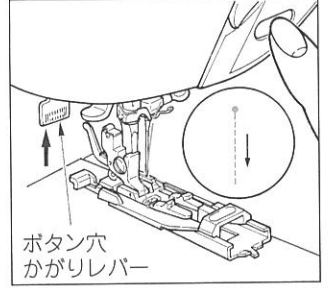
1 押え (E) をセットします。



2 模様を選びます。

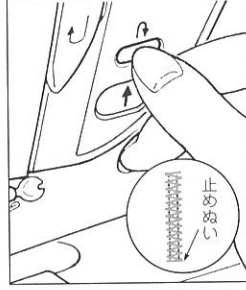
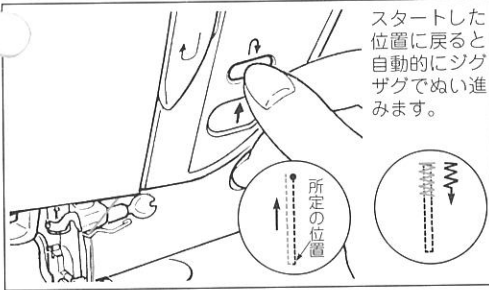


3 ボタン穴かがりレバーを上げたままスタートさせます。

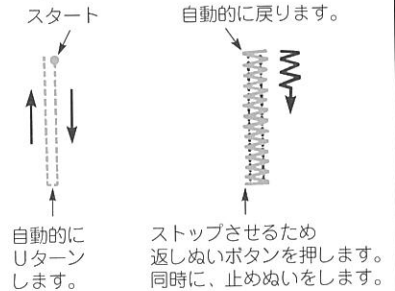


4 所定の位置で返しぬいボタンを押します。

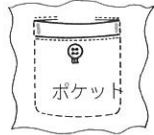
5 ぬい終わりましたら、返しぬいボタンでストップします。



同じ長さのかん止めに2個以上つけてぬうときは...



■使用例



ファスナーつけ

ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけと、つき合わせファスナーつけがあります。

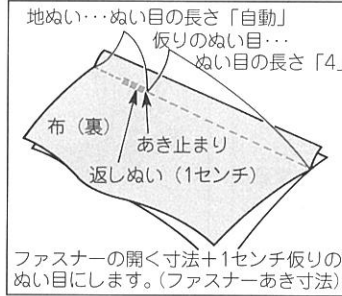
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

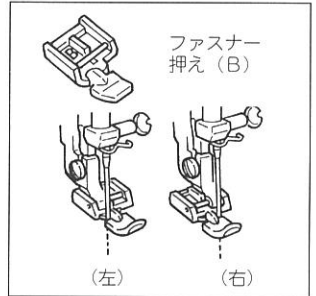
1 模様を選びます。



2 基本押え (A) を使ってぬいます。



3 ファスナー押え (B) をセットします。

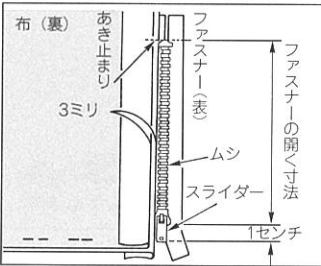


布地を中表に合わせて、地ぬいと取り付けるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

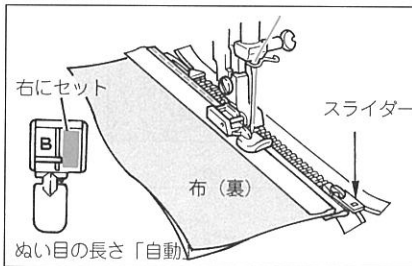
脇あきファスナーつけ

①ぬいしろをわります。



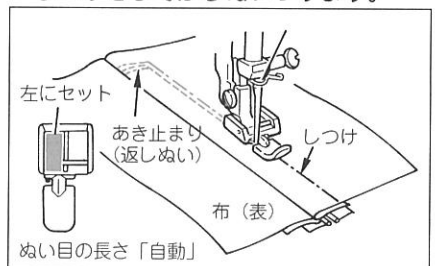
ぬいしろをきちんとわり、後ろ布のぬいしろを3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

②ファスナーの下方から上方にぬいつけます。



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチくらいでミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて、端までぬいつけます。

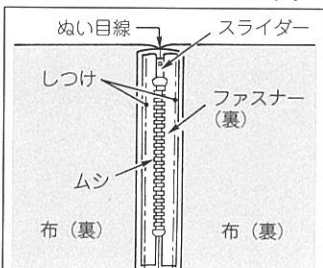
③上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます。



スライダーを引き上げて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。あき止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどいてスライダーを下げ、残りをぬいます。

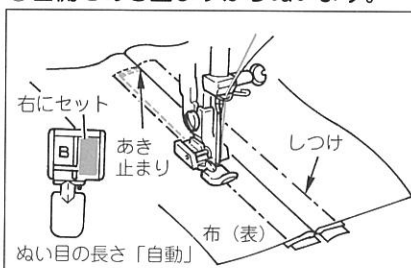
つき合わせファスナーつけ

①ファスナーをしつけます。

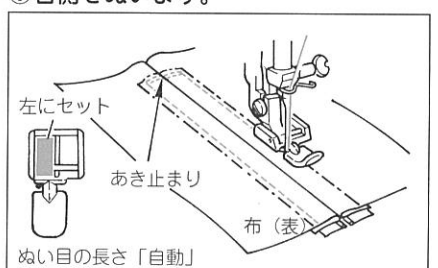


ぬいしろをわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

②左側をあき止まりからぬいます。



③右側をぬいます。

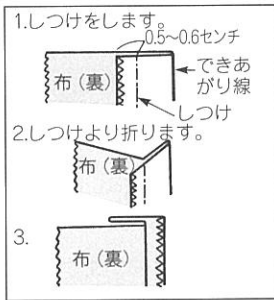


ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

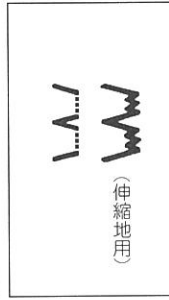
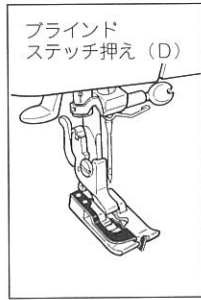
■まつりぬい (ブラインドステッチ)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

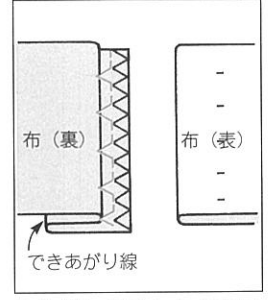
- 1 裁ち目かがりをして布地を折ります。
- 2 押えをかえます。
- 3 模様を選びます。
- 4 押えのガイドに当ててぬいます。
- 5 布地をかえします。



裁ち目かがりは14ページ参照



押えのガイドを折り山にピッタリ当ててぬいます。



ぬい終わりましたら布地を折り返します。

まつりぬい (ブラインドステッチ) のぬい目の幅の調節方法

*布に針が刺っていない状態で調節してください。

折り山にぬい目がかからない場合

ぬい目の幅 せまくなる ひろくなる

ぬい目の幅調節つまみを右 (ひろくなる) の方へ少しずらします。

折り山にぬい目がかかりすぎた場合

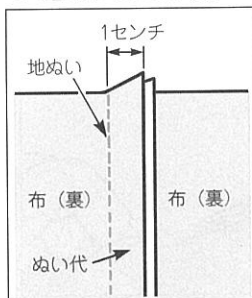
ぬい目の幅 せまくなる ひろくなる

ぬい目の幅調節つまみを左 (せまくなる) の方へ少しずらします。

■パッチワーク

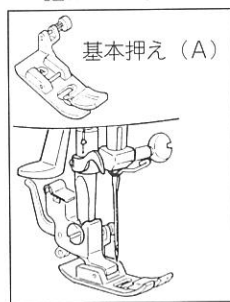
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 地ぬいをします。

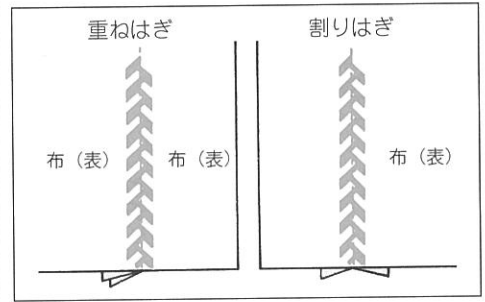
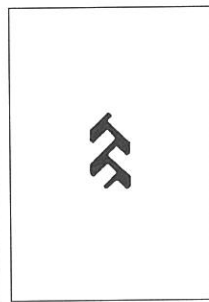


2枚の布地に地ぬいをします。

- 2 押えを確かめます。



- 3 模様を選びます。



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

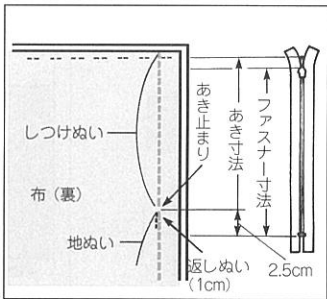
■別売品のご紹介

コンシール押え



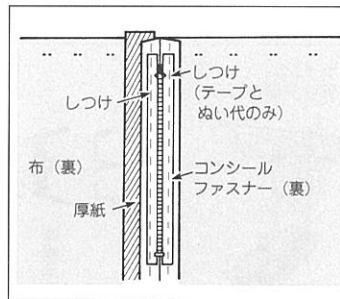
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態、あきの始末ができます。

1 ファスナーあき寸法を確かめ基本押え (A) でぬいます。



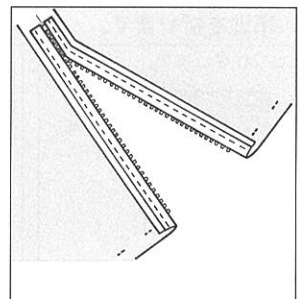
布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。あき止まりからぬい目を(2.0)に変えて、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

2



ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。

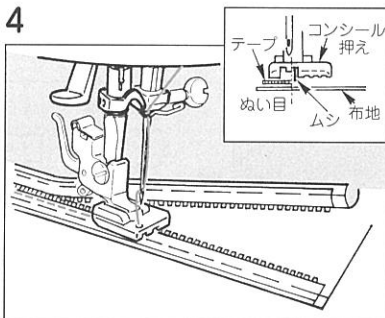
3



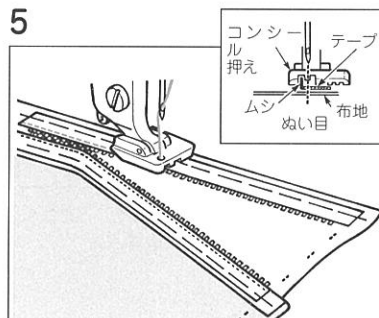
1図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどき、ファスナーを開きます。

⚠ 注意

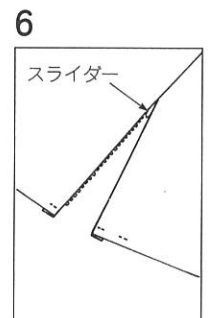
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせます。指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。)



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

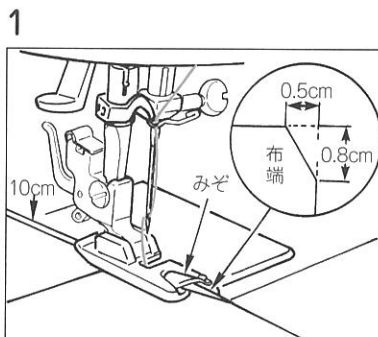
三ツ巻き押え



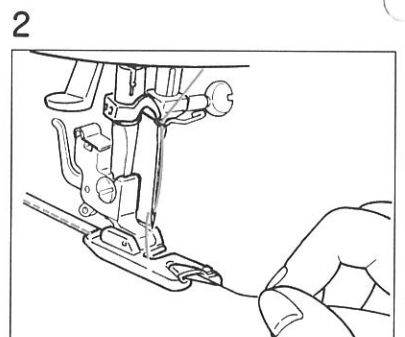
布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

⚠ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。



上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬっていきます。

手動BH押え



使う模様

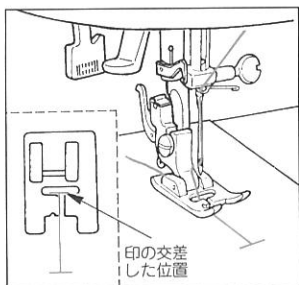


厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かがりをする場合に用います。

注意

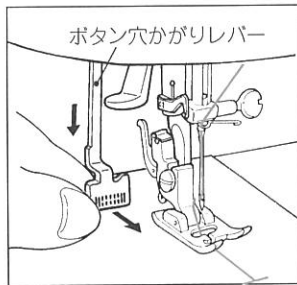
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1



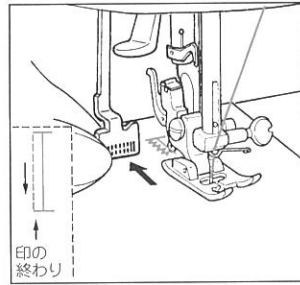
布地にボタン穴かがりの印をつけます。針をあげたまま、印の交差した位置を、押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。

2



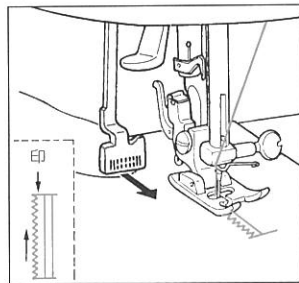
ボタン穴かがりレバーをさげて軽く手前に引き、スタートボタンを押して、ぬい始めます。
●左側の直線ぬいがはじまります。

3



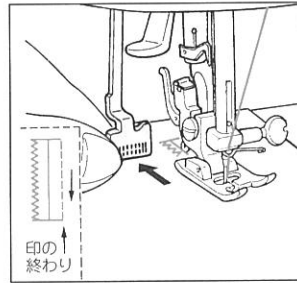
印の終わりに針がでたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押します。
●バックで左側のぬいがはじまります。

4



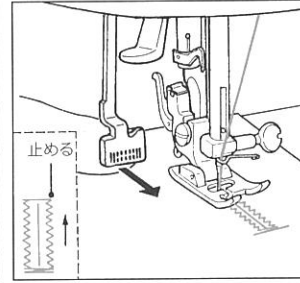
最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。
●右側の直線ぬいがはじまります。

5



印の終わりに針がきたとき、レバーを向こう側に押します。
●手前のカン止めをぬってバックで右側のぬいがはじまります。

6



最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引くと、カン止め、止めぬいをして止まります。

ご注意

1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されるとカン止めに切り変わってしまいます。
2. 失敗したときは、ミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しますと、最初から、ぬうことができます。

布づれ防止に…
上送りアタッチメント



使う模様

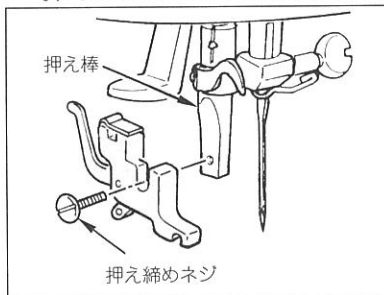


注意

押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

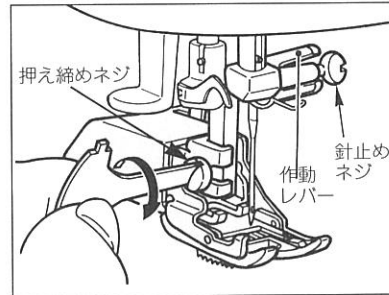
一般にミシンで送りにくい素材(ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など)に使います。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします。



押え棒をあげて、押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

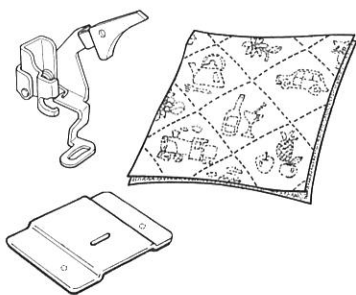
2 上送りアタッチメントを取り付けます。



作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりとめます。

※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

キルトアタッチメント

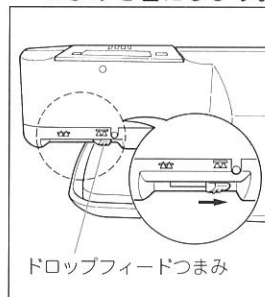


キルト芯を入れて
オリジナルキルトが作れます。
フリー刺しゅうにも最適です。

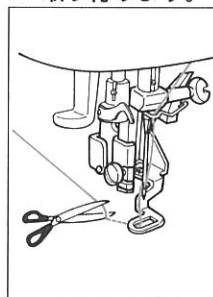
1 押えホルダーを
はずします。



2 ドロップフィード
つまみを右にします。



3 キルト押えを
取り付けます。



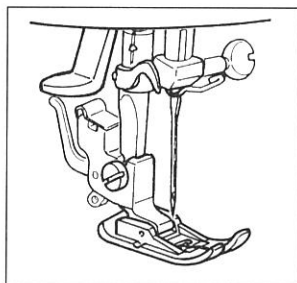
注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

テフロン押え

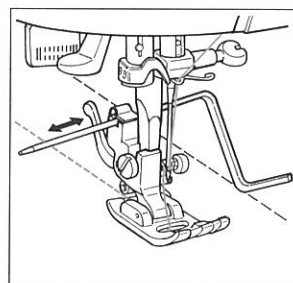
注意 押えの交換のときは電源
スイッチを切ってください。



テフロンはすべりが良いため
送りにくい素材（ジャージー、
ビニールクロス、皮など）に
適します。



棒定規（キルトガイド）

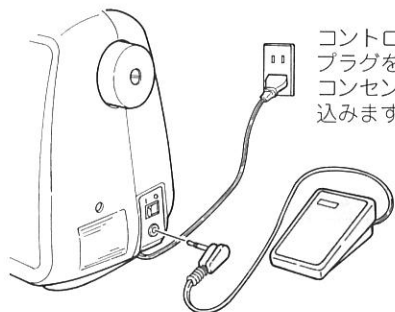


目安となる線に
沿って、まっす
くぬうことがで
きます。

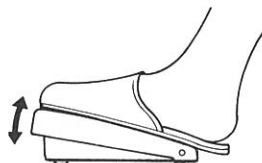
コントローラー

注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

コントローラーを使いますと、スタート、ストップ、スピードコントロールが足の操作で行えます。



コントローラーの
プラグをミシンの
コンセントに差し
込みます。



コントローラーを深く踏むと速くなり、浅く踏むと
遅くなります。足をはなしますと、ミシンは止まります。
※ぬい速度調節つまみの位置により、最高速度が変わります。
つまみを一番右側にすると、ゆっくりから最高速度まで
コントロールできます。
●針は布に入ったまま止まります。
●スタート・ストップボタンはストップのみ有効です。
●返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

仕様表

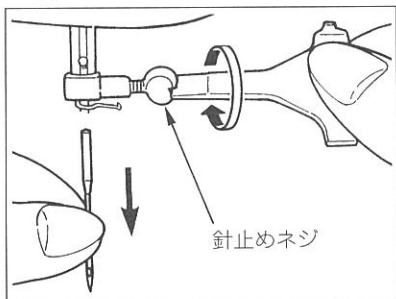
■仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅410×高さ300×奥行180 (mm)
ケースセット寸法	幅440×高さ305×奥行215 (mm)
重量	7.3kg (ケースセット時 8.4kg)
定格電圧/消費電力	100V/76W 50/60Hz
ランプ消費電力	110V/15W

針の交換

注意 針の交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針のはずし方



- ① 針棒を最上部にあげます。
- ② 針止めネジをゆるめます。

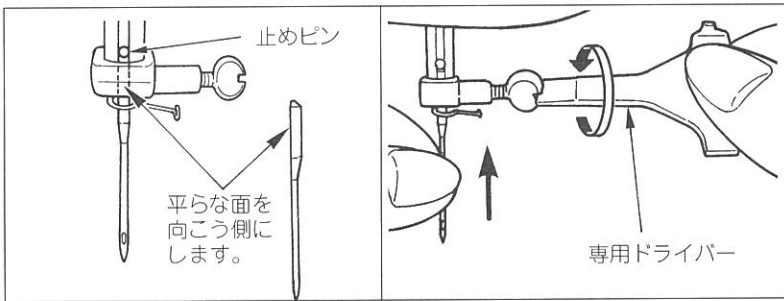
●針の選び方

針をお買い求めの際は、家庭用ミシン針のHA×1またはHA×1SP（ニット針）を指定します。



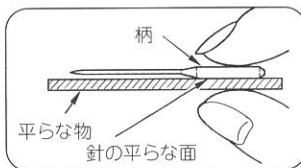
太さの番号表示
数字が大きくなると針が太くなります。

2 針の取り付け方（針が正しい向きでないと、取り付けません）



針の平らな面を向こうにして止めピンまで差し込みます。 針止めのネジをかたくしめます。

●針の調べ方

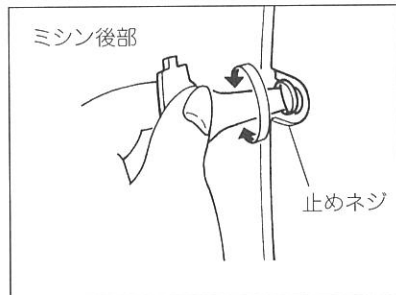


すぎ箇が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにします。

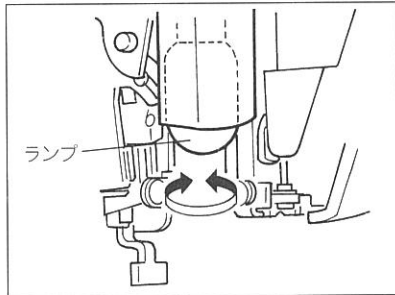
ランプの交換

注意 ●ランプの交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。
●ランプは冷えてから交換してください。

（面部カバーのとりはずし方）



ミシン後部の止めネジをゆるめ、横にまっすぐ面部カバーをぬきます。



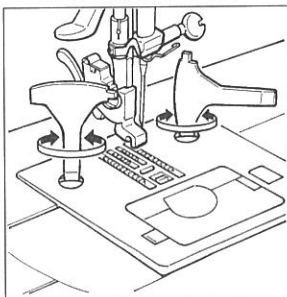
ランプをまわして、とりはずし、新しいランプをとりつけます。

- ランプの消費電力は15Wです。
- ランプのお買い求めは、このミシンをお買い上げいただきました販売店でお願いします。

お手入れ（掃除）

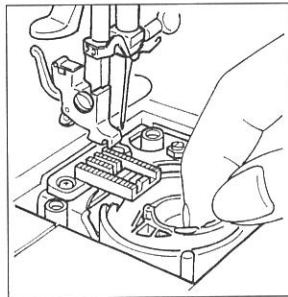
注意 ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針板をはずします。

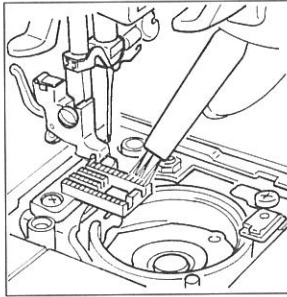


針や押えをはずしてから針板をはずします。

2 内かまをはずします。



3 ブラシなどを使います。



送り歯とかまの中や周辺をきれいにします。たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれになります。

4 内かまをセットします。



内かまの凸部と合わせて落しこみます。

■故障かな……というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求め販売店にご相談ください。

症状	原因（理由）	処置方法	参考ページ
布を送らない	<ul style="list-style-type: none"> ●ミシンが空転している ●ぬい目の長さが手動の左端になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻き軸を左へ戻します ●自動が手動の左端より右側にします 	6 9
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ●針が曲っているか取り付け方を誤ったとき ●押えと選んだ模様が合わないとき ●針、糸、布地の関係が悪いとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●針を交換し、正しく取り付けます ●模様に合った押えを使います ●布地に合った針と糸を使います 	22 8 10
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方が間違っているとき ●糸が必要以外の所へからんでいるとき ●上糸の調子が強すぎるとき ●針が曲っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくかけ直します ●糸立棒・糸案内などからんでいるか調べます ●糸調子を合わせます ●新しい針にとりかえます 	7 — 10 22
下糸が切れる ぬい目がとぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●針のつけ方が間違っているとき ●針が曲っているとき ●糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●正しくかけ直します 	22 22 7
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> ●糸調子が強すぎるとき ●布地と針と糸が合っていないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸調子を合わせます ●正しく合わせます 	10 10
布の裏側にタオル状に 糸がからんでいる	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しくかけ直します 	7
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> ●かまに糸くずがたまっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●かまを掃除します 	22
スタート・ストップボ タンを押してもミシン が回らない	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸が下糸巻き状態になっている ●コントローラー（別売）がセットされている 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸巻軸を左側に戻します ●コントローラーでスタートさせるか、取り外します 	6 21
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> ●針が上にあがっていないとき ●針をとりつけるとき上までつき当ててないとき ●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●はずみ車を回して、針を最上点にあげます ●針を正しくとりつけます ●はずみ車を手でわずかに向こう側（ぬう時と反対）に回します 	7 22 —

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。ただし、マイコン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

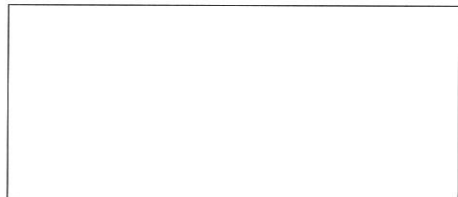
JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お近くの営業所をご紹介させていただきます。

東京営業所/名古屋営業所/大阪営業所
広島営業所/九州営業所

JUKI株式会社

〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-3480-7112



Copyright © 2003 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

000503 (N)